

# 株式会社 免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード：4570



代表取締役社長 清藤 勉

平成27年11月19日（木）



---

**平成28年3月期 (第34期)**

**第2四半期連結決算**

---

## 【連結貸借対照表の概要】

単位：百万円		平成28年3月期 第2四半期連結		
			構成比	増減 (前年度末)
	流動資産	1,746	58.5%	-79
	(現預金)	(1,307)	(43.8%)	(+22)
	固定資産	1,240	41.5%	-71
資産合計		2,987	100%	-150
	流動負債	169	5.7%	-63
	固定負債	245	8.2%	-39
負債合計		414	13.9%	-103
純資産合計 (自己資本比率86.1%)		2,572	86.1%	-47
負債純資産合計		2,987	100%	-150

## 【セグメント別売上高(診断・試薬事業)】

単位:千円	H27年3月期 第2四半期 (連結)	H28年3月期 第2四半期 (連結)	前期比
研究用関連	171,557	145,692	-15.1%
医薬用関連	46,394	56,346	+21.5%
合計	217,951	202,039	-7.3%

## (研究用関連)

- ・主力のEIA測定キットや抗体の自社製品の販売は、順調に推移
- ・タカラバイオ株式会社からの在庫買戻しによる返品処理の影響大

## (医薬用関連)

- ・独占状態の牛海綿状脳症測定キットの販売が順調に推移
- ・マイコプラズマ感染症の流行が予想され、診断薬原料の販売が、順調に推移

## 【セグメント別売上高(遺伝子組換えカイコ事業)】

単位:千円	H27年3月期 第2四半期 (連結)	H28年3月期 第2四半期 (連結)	前期比
遺伝子組換え カイコ	13,860	15,250	+10.0%

## (遺伝子組換えカイコ事業)

- ・大手動物用医薬品企業との共同研究による動物用医薬品候補タンパク質の売上が順調
- ・大手体外診断用医薬品企業からの抗体受託サービスの売上が、第3四半期以降へずれ込む

## 【セグメント別売上高(検査事業)】

単位:千円	H27年3月期 第2四半期 (連結)	H28年3月期 第2四半期 (連結)	前期比
検査	51,953	47,859	-7.9%

## (検査事業)

- ・国内・海外からの引き合いは新規の治験関連大型案件を含め増加の兆しが見え始めているが、販売の回復までには至らず
- ・9月より案内を開始した血中遊離コリン測定サービスの引き合いが増加
- ・動物病院におけるコンパニオン・アニマルの診断支援サービス(Lipo TEST)は、同市場においてサービスの競争等で、受注が伸び悩み

## 【セグメント別売上高(化粧品関連事業)】

単位:千円	H27年3月期 第2四半期 (連結)	H28年3月期 第2四半期 (連結)	前期比
化粧品関連	1,533	6,673	+335.3%

(化粧品関連事業)

・新聞・雑誌等への販売促進広告により、会員数(新規顧客)が増加

⇒新規ユーザー獲得後のフォローが課題

- ・リピート顧客の獲得(アウトバウンド、DM等)
- ・受注体制の構築
- ・継続ユーザーへの優待施策

# 平成28年3月期(第34期) 第2四半期連結決算

単位:千円	H27年3月期 第2四半期 (連結)	H28年3月期 第2四半期 (連結)	対前年 同期比
売上高	<u>285,046</u>	<u>271,046</u> TB買戻しの影響大 (損失前期引当済) 主力のキット・抗体・体外 診断薬の販売が好調	-4.9%悪化
営業利益	<u>▲114,197</u>	<u>▲109,509</u>	+4.1%改善
経常利益	<u>▲83,962</u> 助成金収入、為替差益、 受取補償金を計上	<u>▲106,317</u>	-26.6%悪化
親会社株主に 帰属する四半 期純利益	<u>▲81,825</u>	<u>▲39,631</u> 投資有価証券売却益の 計上	+51.4%改善



## 【連結キャッシュ・フロー】

単位:百万円	平成28年3月期 第2四半期 (連結)	主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	▲17	(プラス要因) 売上債権の減少、減価償却費 (マイナス要因) 四半期純損失、投資有価証券売却益
投資活動による キャッシュ・フロー	+74	(プラス要因) 投資有価証券の売却 (マイナス要因) 有形固定資産の取得
財務活動による キャッシュ・フロー	▲60	(マイナス要因) 長期借入金の返済
現金及び現金同等 物の期末残高	1,227	

---

# 平成28年3月期連結業績予想数値の修正

---

## 【セグメント別売上高(診断・試薬事業)】

単位:千円	当初予算 (連結)	修正予算 (連結)	前年実績
診断・試薬	560,000	530,000	504,917

- ・タカラバイオ株式会社からの在庫買戻し返品処理の影響により予算割れ
- ・主力の自社製品(キット・抗体)が、順調に増加傾向
- ・受託サービスにおいて、市場の縮小傾向により苦戦
- ・体外診断用医薬品のBSEキットがほぼ独占状態で安定販売
- ・マイコプラズマ感染症の流行が予想され、診断薬原料の販売が好調

# 平成28年3月期連結業績予想数値の修正

## 【セグメント別売上高(遺伝子組換えカイコ事業)】

単位:千円	当初予算 (連結)	修正予算 (連結)	前年実績
遺伝子組換え カイコ	110,000	68,000	90,519

### (遺伝子組換えカイコ事業)

- ・大手体外診断用医薬品企業からの抗体受託サービス  
⇒納期の遅れにより、上期売上計上ならず
- ・大手動物用医薬品企業との共同研究による動物用医薬品候補タンパク質の売上が順調
- ・GMP対応を踏まえたパイロットプラントの建設を開始  
⇒平成28年6月完成予定
- ・アステラス製薬株式会社との共同研究現在進行中
- ・株式会社ニッピとラミン511-E8の販売へ向け協議を進行中

## 平成28年3月期連結業績予想数値の修正

## 【セグメント別売上高(検査事業)】

単位:千円	当初予算 (連結)	修正予算 (連結)	前年実績
検査	150,000	120,000	109,977

## (検査事業)

- ・国内・海外からの引き合いは新規の治験関連大型案件を含め増加の兆しが見え始めているが、販売の回復までには至らず
- ・9月より案内を開始した血中遊離コリン測定サービスの引き合いが増加
- ・動物病院におけるコンパニオン・アニマルの診断支援サービス(Lipo TEST)は、同市場においてサービスの競争等で、受注が伸び悩み

## 【セグメント別売上高(化粧品関連事業)】

単位:千円	当初予算 (連結)	修正予算 (連結)	前年実績
化粧品関連	80,000	12,000	25,213

(化粧品事業)

- ・新聞・雑誌等への販売促進広告により、会員数(新規顧客)が増加

⇒新規ユーザー獲得後のフォローが課題

- ・リピート顧客の獲得(アウトバウンド、DM等)
- ・受注体制の構築
- ・継続ユーザーへの優待施策

- ・前年の売上には、(株)エムコスメティックスの売上額が計上

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	900	△35	△50	20	3円5銭
今回修正予想(B)	730	△115	△120	△55	△8円40銭
増減額(B-A)	△170	△80	△70	△75	
増減率(%)	△18.9	-	-	-	
前期実績(C) (平成27年3月期)	729	△181	△139	△158	△24円20銭
増減額(B-C)	+1	+66	+19	+103	

# 現状と施策



□ 診断・試薬事業（早期製品化を目指す）



研究用試薬開発パイプライン

順次製品化を目指す

⇒ 老化関連分子に対する抗体・測定系の開発

サンプルキットを開発中

⇒ 認知症関連タンパク質として、アミロイドβを中心とした種々のタンパク質に対する抗体・測定系の開発

サンプルキットを開発→評価中

⇒ メタボリックシンドローム・生活習慣病関連分子に対する抗体・測定系の開発

既存測定系の改良による高感度化を実施中

診断・試薬事業（早期製品化を目指す）



## 今期製品化（予定）

LPL（リポ蛋白リパーゼ）のラテックス自動化診断薬

- ⇒少数の検体から多数の検体まで幅広く対応！
- ⇒測定操作も簡便！
- ⇒検査センターや病院の検査部門などでも広く測定することが可能！



体外診断薬としての認証を取得し、現在保険点数の取得を申請中で年度内に取得見込

⇒来年度、販売開始予定

診断・試薬事業（早期製品化を目指す）



## 来期以降製品化（予定）

難聴・めまい	難聴・めまいの原因を生化学的に診断できる世界初のバイオマーカー（CTP）の製品化 ⇒ <u>診断薬企業と共同で製品化を目指しております。</u>
白血病	新規治療薬シーズとして研究開発（ヒトT細胞白血病の発症原因ウイルスであるHTLV-1）・製品化 ⇒ <u>試薬として開発中</u>
新規治療薬のスクリーニング	ATL新規治療薬のスクリーニング、薬効評価及び関連タンパク質に対する抗体や測定系の開発・製品化 ⇒ <u>試薬として開発中</u>
筋ジストロフィー症	筋ジストロフィー症のマーカー分子に対する測定系の開発・製品化⇒ <u>開発中</u>
アルツハイマー病	神経細胞に毒性を有するとされているアミロイドβの毒性コンフォマーに対する抗体⇒ <u>開発中</u>

遺伝子組換えカイコ事業

## ■ 生産体制の構築(GMP準拠)

- ・前橋研究所(パイロットプラント)建設開始

⇒ 平成28年6月完成予定

## ■ 医薬品用途での実用化

- ・アステラス製薬(株)との共同研究

- ・ヒト型フィブリノゲンの大量生産に

向けた製造方法の検討等⇒ 進行中

- ・パイロットプラント(群馬県前橋市)による試験生産

⇒ 平成28年7月以降開始予定

## 遺伝子組換えカイコ事業

### ■ 医薬品用途での実用化

- ・大手体外診断用医薬品企業へ原料の供給

⇒ 下期から安定供給開始

- ・動物用医薬品企業へ原料供給

⇒ 順調に製品化へ向けて進行中

### ■ ラミン511-E8のiPS細胞等培養用試薬とし

ての実用化 ⇒ 株式会社ニッピと研究用試

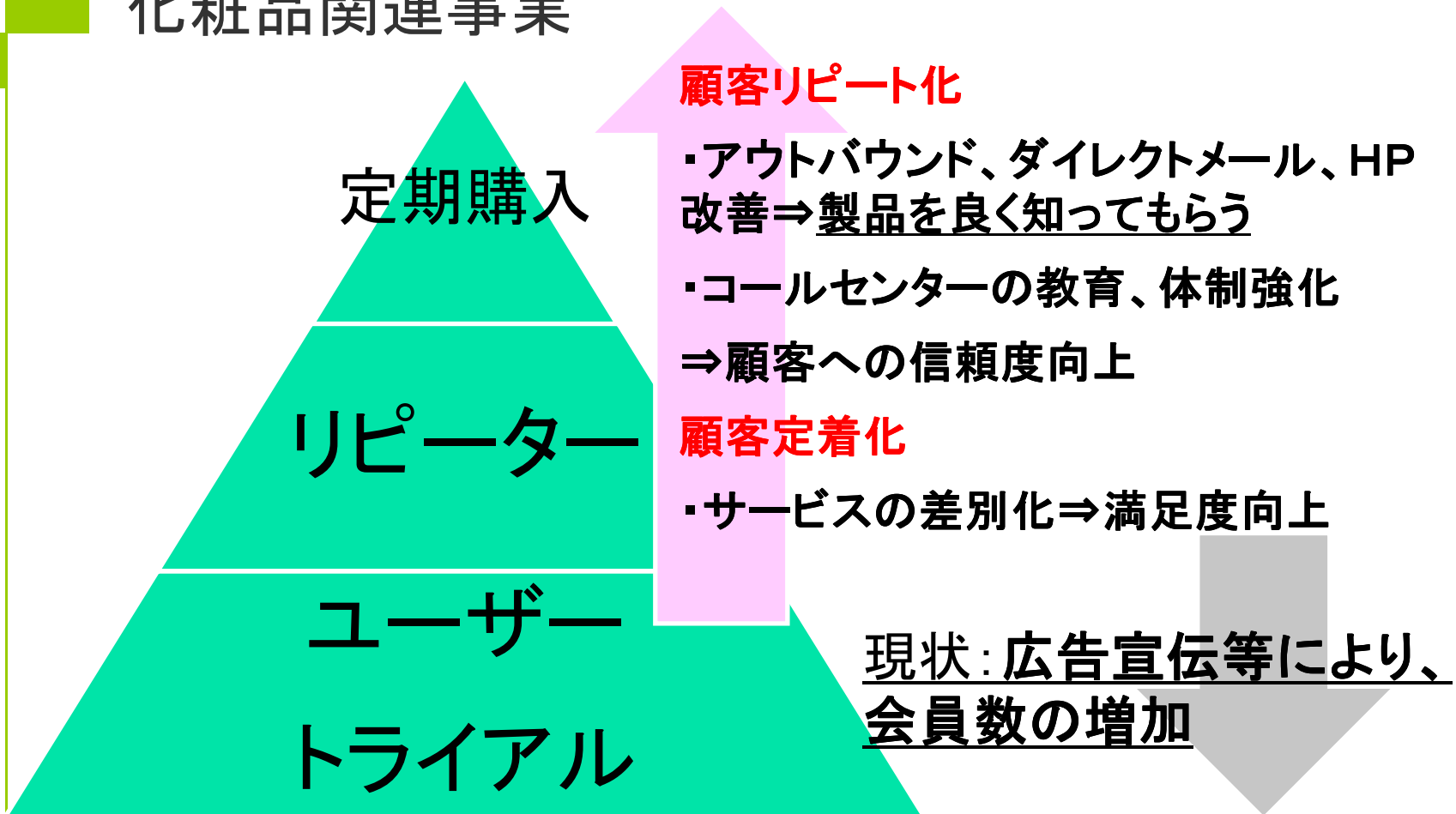
薬の販売へ向け準備中

# IBL 現状と施策

## 検査事業

重要課題	戦略
検査サービスの 認知度UP  検査項目ラインアッ プの充実	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 脂質関連学会等へのグループシナジーを生かした展示活動による認知度UP</li><li>■ 新規サービスの開始<ul style="list-style-type: none"><li>リポタンパク質粒子数解析</li><li>非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)マーカーの測定受託</li><li>犬の歯周病菌検査受託</li></ul></li></ul>

## 化粧品関連事業





本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。